



洋書輸入協会会報

Vol. 31 No. 2 (通巻357号) 1997年2月

新年懇親会

平成9年(1997年)の新年賀詞交歓会は本年より所を変えて、交通至便な皇居前のパレスホテル松の間で開催された。

参加数こそ昨年より4社(20名)少ない68社、185名であったが、この一年で退会された会員数と在京会員の数を考慮すると80%以上の出席率で大変盛会であったと言える。

始めに関野文化厚生委員長の開会の辞、和田委員(大洋交易)の司会で進められた。

恒例の理事長挨拶は昨年6月新たに理事長に就任された丸善社長鈴木信夫氏であったが、従来の格調高い経済談義のイントロが割愛されて、ずばり転機を迎えた協会の在り方に言及されたことは業界の置かれた厳しさを端的に象徴するものであった。

続いて中林理事(日貿社長)より従来の学術専門書中心の偏った販売から大衆をターゲットとした販売への大胆な発想の転換こそ低迷する業界を救う道とした示唆に富むスピーチがあり、乾杯の音頭をとられた。

(両氏のご挨拶の要旨は末尾から次ページの通り)

新しい会場の料理に舌鼓を打ち、歓談に時を忘れている内に忽ち定刻の8時が回り、ユサコ(御山川)社長の今回の理事長の挨拶に共鳴するとのコメントと締めで閉会した。

今年の会場であるパレスホテルは今までの多くの会場

のように周囲が厚い壁で外界が遮断された閉鎖的な部屋とは違って変わり、大変開放的で、街灯に照らされた皇居前の夜景の眺めはしっかりと品格があり、豊かな気持ちに満たされて帰宅の途についたのは一人私だけではなかったようだ。

(文化厚生委員長 関野記)

(理事長挨拶)

皆さん、明けましておめでとうございます。

私は昨年、前海老原理事長の後を継ぎましたが、時代背景からみて、理事長として何をやるべきか極めて難しく、頭を悩ませているのが本音です。今は日本の経済や社会そのものの変わり目の時期ですから、我がJBIAだけが独り変わらないということは考え難いことですし、しかも全体的な傾向としては何やら下り坂の変わり目という感じです。そうした中でまずは平衡感覚を取り戻し、そこから先どのように立ち上がるかをきめなければならぬからです。

こういう変わり目はこれまでのJBIAの歴史の中では初めてではないかと思います。今言われている変化の有り様の一つとしては、自由な競争、公正な競争という社会の仕組みが日本の中に定着していないので、国際社会に同化する、或いは比肩するであろう経済社会にするために、より自由な競争を促進するという理論は正しい

目次

新年懇親会	1	理事会報告	4	出版文化史逍遙一西から東一(3) ...7	
ロンドン・オンライン・		海外ニュース	4	広 告	8
インフォメーション'96	3	お嬢さんの英語発見?	5		

わけですが、そういう体質になかった日本経済そのものを反省しようとするのがその動きであったとすれば、JBIA 或いは洋書業界で起きている、またはその中で作った体質そのものに対して、国も社会も或る変化を求めている気がします。その変化とは「自由な競争」であり、となれば〔仲間意識〕は切り捨てねばなりません。経済社会における競争の原理とは、そこにルールはあるものの、それぞれの企業の自由な力と力のぶつかりあいを促進しようとするからです、JBIA が洋書普及に今まで努力してきたことをこれから継続的にやろうと考えた時に、実はそういう目標は既に失われている、そうした中で自由な競争のみが求められる時期に至っていることになります。この問題をどうするかが JBIA が今抱えている最大の課題といえるのではないのでしょうか。

昨年の総会で JBIA の在り方に大きな疑問が提示され、10月から新設された特別委員会で真剣に議論されています。しかし、この議論は「協会存続」を前提に行われています。本当は「もし協会がなくなったら」という議論も必要ではないか、という気がします、ともあれその成果を踏まえて私としての考えを出さねばならないと考えています。親睦は同じ業界の中で仕事をする上で

大事な要素であることは判っていますが、会費を載いている会員の皆様方に対して、協会の存在が何らかの形で有益であるためには何をすればよいかと考える時に、他の業界団体のように、製品標準を作る、会員の社員のための共同福利厚生事業を行う、業界全体の広告宣伝プロジェクトを組む、といったことを『洋書』という商品を核にして考えねばならない、ということになります。私は、今や洋書も和書もないと考えていますし、既に冊子体をとらない情報が商品化されています。その中でこの協会の有り様を問う、というのは大変難しいことです。我々が直面しているのはそうした種類の問題になっているような気がします。同じ業界の仲間としての大事な要素を、会員としてこの協会に所属している意味合いに繋げてゆける新しい道を探る努力をしなければならない、それが特別委員会の議論の成果として出てくることを望みながら、というのが今年のスタートであろうと感じています。

来年どんな風にご挨拶出来るか、せいぜい努力したいと存じますので、皆様方の厳しいご指導と暖かなご支援を頂戴したいと願っています。本日は有り難うございました。

（中林理事挨拶）

理事の一人として、洋書輸入協会の活性化を図らなくてはならないと皆様方がおっしゃっておられることは身にしみて感じている訳でございますが、一方で『洋書』とは何かということを私なりに考えておることがあります。それは会員の大半が洋書とは学術専門図書と考え、販売ターゲットは大学図書館など又は高学歴社会を市場として来たと思います。いわば大衆へのアピールを無視してきたと思います。その結果今日洋書輸入協会の存亡の危機が来ていると思っております。勿論、大学図書館などを対象市場とすることは悪いとは申せませんが、今日世間ではたいへん横文字が流行っていて、渋谷のタワーレコードでは CD の約 7 割が横文字であり、若い人達は私には訳の分からない難しい英語で歌っています。そういう社会情勢にありながら協会には大衆に目を向ける行動や商品が依然として欠けているのではないのでしょうか。ビジュアルでもコミックでも良いから洋書の棚が二・三本ある書店が地方にも見られるような業界になれば、市場もパイも大きくなるし、業界そのものも豊かに

なってくると考えます。そうするためには、小売り・卸・REP・ELT などの部門に部会を作って、情報の交換や収集・伝達をしながら活性化を図れば良いのではないのでしょうか。

今や大きく転換を迫られている洋書輸入協会ですが、50数年の歴史と伝統の賢明なる伝承のもと、大胆な発想と勇気ある挑戦をしながらますます発展することを念願いたします。乾杯！



ロンドン・オンライン・インフォメーション'96を振り返って

ユサコ株式会社ニューメディアグループ 梅田和江

今年も Online Information'96 が London Olympia で12月3日から12月5日まで開催されました。ユサコからは弊社社長をはじめ他7人のスタッフ及び今年6月開催した「ユサコ電子出版会議」にて当選されたお客様1名との計9人が参加致しました。「ロンドンはいつも曇り」説とは反対に開催中は天候に恵まれました。

会議参加者はバーコードで管理され、受付時にバーコード付きの名刺が発行されました。出入りをチェックされるほか、各ブースでの潜在顧客の自動登録にも利用されていました。大変うまくオーガナイズされている管理システムでした。今会議の入場者の中に日本人は余り見られなかったのに対し、多くの東南アジアの方々の参加が目立ちました。オンライン市場への今後の参入を目指す情報収集を目的とした参加が多かったと聞いています。

さて、今回出席した Online Information'96 は20周年を迎え、オンライン市場、情報産業界は大きく変化を遂げています。ほとんどの展示会社でインターネットビジネスが始まり、キーワードはインターネット、イントラネット、それに伴うアウトソーシングを掲げていたのはいうまでもありません。インターネットの参入で、多くの出版社、ベンダー等からの速報サービスを可能にしたほか、彼らのマーケット市場が世界中に向けられていたようです。またインターネットとブラウザの普及により、インターネット（オンライン）ジャーナル、データベース検索エンジンの Web 化と関連リンク、Java 技術の採用がどこのオンラインベンダー、出版社でも見られました。特に、ここ最近急増する Web ブラウザを利用するジャーナルの全文オンライン化もこれに起因する動きといえるでしょう。このように多数の情報提供側がある種のオンラインサービスをはじめる一方で、異なるオンライン商品を一箇所からリンクさせるナビゲーターサービスの提供も少ないながら出ていました。また多くの出版社（データ作成元）の相互の、あるいはベンダーとの提携も多くみられ、このような提携関係が容易に行われるのも WWW の普及による現象といえます。特に、一対複数の提携がかなりみられ、とても複雑化していました。データ作成元の安易なデータ流出はいつまで続くかに多少疑問を残しました。その他、インターネ

ット提供データの普及を支えるビューアソフト開発会社他、セキュリティソフト会社の参加は来場者よりむしろ出展者が彼らのターゲットだったのでしょうか。

出展ブースに関しては、世界中であい続く M&A の中ブース数が例年より減少したとはいえ、世界中から250以上のブースが財政、ビジネス、科学技術、法律関連および電子出版情報のネット上でのコンテンツ提供を活発に行っていました。その一方で CD-ROM はかなり減っているながら、CD-ROM 商品とインターネット商品の2本だての提供は続いています。弊社の中心市場

STM (Scientific, Technical and Medical) 関連での中心も全文雑誌のオンライン提供でした。Blackwell Science の "Online Journal", Carfax, Thomson Science & Professional Journal (Chapman Hall & Rapid Science), Academic Press の "IDEAL", Springer-Verlag's の "Link", The Royal Society of Chemistry ほかがインターネット版ジャーナルのデモ実演を行っていました。Elsevier Science の ScienceDirect™ は、デモ実演が可能な状況ではないようでした。Beilstein 社では Cross Fire およびその姉妹品である抄録付きの Cross Fire Abstracts TM の各インターネット版 Cross Fire Net, Net Fire TM が紹介されていました。Silver Platter 社では同社の Web Spirs で利用する書誌事項データベースから一次資料にリンクを可能にする Silver Linker がアウトソーシングをうまく利用したシステムだともいいます。Ovid Technologies 社は Full Text データベースの追加と Ovid 検索ソフトの Java 技術の取り込みがメイントピックでした。特に Java 導入は検索スピード、セキュリティの向上ほか多くのメリットを生み出すこととなります。Prous Science Publisher は Daily Essentials (旧 Weekly Essentials)、The Timely Topic in Medicine、Telesymposia Proceedings、Opportunity Knocks in Life Sciences 等多くのインターネット商品をラインナップしていました。Information Access Company や Wilson は CD-ROM、オンラインベンダーにデータ提供する一方で独自のインターネット提供サービスも行っています。これからの動きからも

インターネットはどここの会社でも不可欠となっていました。

最後に、今後もオンライン市場はインターネットの普及もあわせて変化していくことでしょう。その普及と合わせ、各データ提供元の今後の出版形態の変化と電子化されていく中でどう彼らのデータを守っていくか、電子媒体でのデータに関するコピーライトの問題等解決して

理事会報告

1月30日(木)

㊦収支報告

1月23日(木)開催の総務委員会で審議の12月分収支について副総務委員長の報告を承認した。

㊧委員会報告

1. 事業委員会

’97年東京国際ブックフェアで開催の洋書バーゲンセールは好評裏に終了。売上は昨年比106%。

2. 文化厚生委員会

定時総会の会場の候補地決定と地方(主に関西地区)からの出席者に対する交通費補助額決定の2案が提出され、会場は候補に挙げられた“河鹿荘”を承認、関西地区会員の交通費補助額は一人¥15,000とした。

㊨特別委員会報告

1月24日(金)に第4回の委員会が開催された。意見もほぼ出尽くされたので、次回までに全会員を対象としたJBIAに対する要望や改善点、在り方や方向性についてアンケートを作成することとした。

㊩Publishers Weeklyの件

間違った記事の訂正の約束や謝罪がないまま、理事会のメンバーとの面談を希望するPWのMs. Sallyに対して理事会との会合は正式に断ったが、各社の代表者として個々に2、3の理事が面談して我々の考えを伝えた旨報告があった。

海外ニュース

書籍の売上にオブラ効果？

アメリカで最も人気のあるTVトーク・ショウ『オブラ・ウィンフリー・ショウ』は、TV番組に与えられる全米で最も権威ある賞であるエミー賞を合計25部門で受賞し、世界中に約1,500万から2,100万人もの視聴者

いかなければならない問題に直面しています。ただし、コピーライトに関しては以前に比べ各電子ジャーナル発信側の体制が整いはじめ、Web上での公開も増えつつあるのは受信側にとってもありがたいことです。このように日々変化するインターネット事情に対し、ユサコでは従来以上関連情報を収集し、お客様に伝えていきたいと思っています。

(大多数が18歳から54歳の女性という、書籍の主な購買層)を持つ番組で、その人気は司会者の黒人女性オブラ・ウィンフリー自身の人気を反映している。ショウのプログラムのひとつとして、昨年秋から「オブラのブック・クラブ」というコーナーがはじまり、そこで紹介される本がベストセラー・リストに登場するようになった。ニュース番組のリポーターたちは、それを「オブラ効果」と呼び、オブラ自身もアメリカ人を(ひいては世界中の人々を)読書に誘うという、新しい使命に目覚めたという。

「読書というものは誰にとっても、新しい世界へのドアを開け、未知の分野に踏み込み、新しいものの考え方を得る機会をもたらすもので、それは他のメディアでは得られない体験なのだとすることを強く感じます」オブラはそう語る。「私は本をよむことが視聴者のライフスタイルの一部、ごく普通の日常生活となればと思っています」

ショウ全体と同様に、「オブラのブック・クラブ」も彼女の個人的なアプローチ、つまり彼女自身が興味を持った本を紹介するという構成になっている。取り上げる本もオブラ自身が選ぶのであって、出版社からの推薦(在庫品を貸し出している卸売業者が何社かあるという噂もある)からは選ばれない。

「ブック・クラブ」の人気の高まるに従って、そこで選ばれた本が視聴者や出版業界に大きな影響を与え出したことに、オブラ自身も気がついている。彼女のプロダクション HARPO ENTERTAINMENT が映像権を持つトニ・モスリン等の著作が紹介されることについて、何らの示唆も与えられてはいないとオブラは言う。オブラは、本が突然脚光を浴びるという劇的な効果を楽しんではいるが、1万冊を図書館に寄贈するという条件で(それで購買者を待たせずにすむ)出版社にも前もって情報を流すことも検討している。

—PUBLISHERS WEEKLY/JAN. 20, 1997より—

お嬢さんの英語発見？と効果的な学習法

島 岡 丘

ある日、友人が小学校2年生のお嬢さんを連れて遊びに来た。そのお嬢さんは英語を習っているということなので、聞いてみたところ、猫は cat で、狐は fox で、馬は horse で、象さんは elephant であると、自分の覚えた単語をすらすら得意そうに披露した。よく覚えてるね、とほめてみたものの、これでいいのかと気になった。おそらくその子は外国語教育の専門家に習っていないのではないかとさえ思う。まず第1に、発音は全く日本式なのである。第2に、英語の勉強は単語を覚えることと割り切っていることである。第3に、単語を覚えることはその単語の意味にあたる日本語を当てはめることであると考えているということだ。第4に、単語の習得は、ちょうど切手でも集めるようにしか考えていないのではないか。この4つをまとめると、音声無関心文字依存学習、発音と文法への無関心、和訳中心、語彙だけの知識、ということになる。将来、そのお嬢さんは英和辞典の日本語訳のところしかみないのではないかとさえ思った。

私はそのお嬢さんに、こう言ってほしかったのである。英語を教わるようになって、いくつか発見したわ。まず、英語でもペンのことをペンというと思っていたら、違うのね、英語らしく発音しようとするともっと強く息を吐き出さないといけなんだった。それにね、日本語に全くないのに英語でよく使う音声があるのね。fox の f と horse の h とは全然発音が違うこと、elephant は「エウ・ラフント」のように・・・（強弱弱型）のリズムがあるのね、といくつかその若々しいお嬢さんの鋭い感覚で捉えた発見の喜びを生き生きと伝えてくれるのではないかと期待していたのだが。もしも、このような発見がなく、日本語の音声体系の枠の中で英語の単語だけを増やす英語教育が小学校で始まるのなら百害あって一利なしとなる。

私の娘が小学校の頃、まわりの「～さん」も「～さん」も英語を習っているの、英語を教えてほしいとせがまれた。あまり言うので、理由を聞いたら、英語を知らないで友だちから馬鹿にされるのだそうだ。仕方ないので、質問に答える形で教えて見ようと思った。

英語で覚えたいことは、と聞いたら、第1の質問は

「日本」のことを英語でどう言えばいいの？だった。自家用車の中であり、しかも夕方、耳だけが頼りである。[dʒəpˈæn] と言うんだよ、と伝えと、それまで、正真正銘の英語を直接聞いたことがなかったらしくショックだったらしい。何度も試行錯誤を繰り返しているの、やはり、ヒントを与えてやろうとして、始めは唇を丸めなさい、それから「チュ」と発音してから濁音にすればよい、と伝えた。娘は私の意味が分かったらしく、「舌の先を上の方につけるといいんでしょう？」と自分なりの意見を伝える。よくわかったね、大したもんだよ、十分褒めてやる。「シュ」を濁音にすると舌先はつかないからね。「ジャパン」日本人に発音しやすい日本語だよ、とも教えた。

「後のほうは勢いよく言えばいいの？」と聞くので、口をあまり開けずに唇を閉じた後で、息を十分貯めてから一度に吐き出さなさいと指示した。pun にならないよう唇を左右に思い切って引きながら言いなさいとも伝えた。

娘にとって最後の難関は音節末の [n] である。どうしても日本語「ン」になるので、舌先を歯茎に押しつけない、と言うと、ようやく娘はできるようになったが、唇の丸め、唇の左右の引っ張り、息の貯め、舌先の制御、弱音節＋強勢音節の弱強リズム、これらを統合して Japan と発音できるようになるには、かなりの練習量が必要であるように思われる。私の指導が娘の将来にどれほど役立ったのか定かではないが、大学時代は日米学生会議を経験し、卒業後は外資系の銀行で、英語を不自由なく駆使して仕事をしているのを聞くと、基礎発音の練習はやはり役立ったのだろう。

今の中学の検定教科書でも、英語教師採用項目にしても、音声は重視しているものの、大半は個人個人の自覚と努力に委ねられている。私は最低限、発音記号を見れば、どんな単語を見ても発音できるという自信をもたせることが必要であると思っている。しかし、実際のこのレベルに達する生徒が少ないので、近似発音として母語のカナを使った近似カナ表記を考案したところ一部で喜ばれている。

「三つ子の魂、百まで」という諺にある通り、最初の

学習方法が極めて重要な意義を占める。アメリカの構造言語学者として有名な Charles C. Fries が1945年に書いた *Teaching and Learning English as a Foreign Language*. (Mich. Univ.: Ann Arbor) は、「新しい言語を学ぶとき、主な問題は、第1義的には、語彙項目を覚えることではない。まず、第1は、音声体系を習得することである——談話の流れを聞いて理解し、その明らかな特徴を聞き取り、それらを実際に近く発話しようとすることである。第2に、言語構造を構成している配列特徴を習得することである」としている。つまり、単語を覚えるのではなく、音声の特徴と語順の特徴を把握することであるとしている。音声に強くなることはリズムを身につけることでもあり、ひとりでに声を出し、リズムカルに読んでいこうとする望ましい態度ができる。言い換えれば、直読直解の習慣ができるのである。

しかし、今でも多くの教室の雰囲気は文部省検定教科書の日本語訳に手一杯という感じであった。ちょうど、あのお嬢さんのように、日本語のことは英語に当てはまりさえすればそれが英語力が付いたと思う無邪気さをもっていた。ただし、私は、音声体系の集中学習によって、発音記号をてがかりに新語をどんどん読み取ることができるようになっていたので、英語の学習が楽しかったが辞典を活用して英語力を付けていく学習者の数は極めて限られていた。

私が高校一年の時に、英語担当の先生から、「島岡君、英語力を本当につけたと思ったら、受験参考書をやっても力はつかないよ。英語の原書をどんどん読むのがいいよ。」と言って、研究社英米文学叢書から一冊を貸して下さった。第1章は有名な David Swan の話で、とても面白く、10数頁しかなかったので、1晩で読むことができた。未知な単語や辞書にない単語もあったが、辞書の引き方をすでに知っており、発音記号を活用できるようになっていたのも、未知の単語例えば、vissisitude のような語があっても平気だった。また、友だちよりも、早く英語が読めるのでとても嬉しかった。やはり音声面を学んでいるとスピードもつくだらうか。

当時の高校では大学受験が大きな問題で、ときどき学内模擬試験、全国模擬試験が行われた。1年の終わり頃、その担当の先生が言われたとおり実行していたせいか、どの試験でも比較的良い成績だった。先生に報告したところ、好きな英語をどんどん読んでいけば大学入試など怖くないよと言われたのが印象的だった。

ただし、受験参考書を全然読まなかったわけではない。いくつか読んでみたところ、どの問題もわずか数行であるが、出典が示してあったので、良さそうな内容のものは原著にあたってみたいと思った。Everett の *Ethics of life*, S. Maugham のいくつかの小説、R. Lynd のエッセイはそうゆうわけで目を通した。私がなぜ先生が受験参考書をやっても力がつかないと言われた理由がわかった気がした。それはすべての問題に模範訳が書いてあり、私自身が考えだそうとする機会を奪われるからである。それはちょうど、「猫は cat, 狐は fox...」などと言えたらもうそれ以上追求して学ぼうとしないあのお嬢さんの態度に似ている。おそらく、本は book と言えたらすぐ次へ進むのであろう。

私は「book は本でない」と学生に伝える。英語を英語で考えてほしいためだ。book の種類には、周知のように、印刷されているいないにかかわらず、四角の紙の片方を閉じられてセットにしていればよいのである。printed book, notebook, guest book, visitor's book, wordbook, picture book, checkbook,... など様々ある。私が bilingual でなく monolingual な辞書を薦めるようになったのは、想像力や創造性、推理力、洞察力、観察力を育む機会を与え、専ら末梢的なものを記憶することにならないようにしたためである。

去年の秋に新潟へ講演に行く途中、車窓から外の景色を眺めていると、越後湯沢の山々に低く雲が垂れ込めていた。その時、このような魅力的な風景を英語で描写できないかと内心考えた。よく観察すると、低い浮かぶ雲のおかげで青空はすっかり覆われている。そうだ！思ったまま知っている単語を使って自分の感情を率直に表せばいいのではと考え、I saw a long stretch of low cloud coverings. とまとめてみた。monolingual の辞典にもそれに似た表現があった。

英語の力をつけるには英語のコンテキストの中で理解した表現すること、これが最も大事なことであろう。場面を描写するのに母語を介せず生き生きとした感覚でとらえ英語で表現しようと努力することで、これまで蓄積した英語力が生き返ってくるような気がするのである。

(茨城キリスト教大学教授)

英語辞書の歴史—ジョンソン・ウェブスター・OED—(4)

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆ジョンソン辞書の特徴(2)

ジョンソン辞書の最大の特徴ともいえる引用例文について、もう少し触れてみることにしたい。

ジョンソンは語義を確定し説明できればそれでよいという例文を選んだのではなく、模範的な文章を選定するように心がけている。しかし、時にはそれらの文体を批判しており、説明の中で“improper” “irregularity” “not accurate” “not to be imitated”といったように、その用例にいわば寸評を加えている。文学者としてのジョンソンの言語に対する思想が辞書編纂に反映した重要な要素であった。

何人ぐらいの作家の文を文例として掲載したのか不明であるが、シェイクスピアからの選定が一番多いということであり、シェイクスピアの文例では当辞書の中だけではなく、この時代のシェイクスピア文献の中では最多であったという。このシェイクスピアからの引用文は、彼の編集で1765年に刊行された『シェイクスピア全集』(全8巻)に含めた3,600の注釈に利用されることになる。ちなみにジョンソンが執筆したこの全集の序文は、シェイクスピア批評の傑作の一つといわれている。

もう一つ引用文収載にみられる特徴を指摘すると、それらの例文を年代順に配列したことである。この方式は後年『オックスフォード英語大辞典』がタイトルの中で“Historical Principles”と明記したように、さらに徹底した形で踏襲されることになる。

現在われわれが使用している辞書の大部分は、語義が異なる毎に数字を付して区分してあるが、このシステム

“numbered definition”を採用したのはベンジャミン・マーチンの辞書が最初であったことを以前述べた。この辞書は1749年に刊行されたが、実は、この方式の創案はジョンソンであったというのが定説である。ジョンソンが辞書を編纂するに当たって執筆した「計画書」の中にこのアイデアが盛りこまれていて、計画書はマーチンの辞書より前の1747年に公刊されたこと、またジョンソンは辞書編纂にマーチンの辞書を使用しなかったと判断されること、さらに、マーチンのナンバーによる語義区分が統一的・体系的と見られないこと、など幾つかの

点からジョンソンのアイデアを盗用した可能性が高いと考えられている。

次いで、綴り字法(Orthography)について触れてみることにする。ジョンソンは英語の綴り字についてかなり保守的であったようだ。永島大典『ジョンソンの「英語辞書」』によると、初期文法家たちが試みた綴り字改良運動がすべて功を奏しなかったことや、フランスにおける綴り字改良が結果的にフランス語を混乱させてしまったという事情を知っていたからだと論述し、こういう事情を熟知していたことが、綴り字に関して彼を保守的にしたもので、決して頑迷固陋な彼の性格に起因したものではないと評している。

さらに、発音について見てみたい。この辞典には、アクセントは表示されているが、発音記号は記載されていない。発音記号については、当時まだ英語の発音が流動的であって、しかも音声学が発達していなかったという事情と併せて、ジョンソン自身がこの方面の知識に大変弱かったことによるものであったらしい。一方アクセントについては、語学的観点からアクセント記号を付したというのではなく、むしろ作詩法の問題として考慮されている。例えば“ADVERSE”という単語に「現在、散文においては最初の音節にアクセントをもっている。詩においてはシェイクスピアは最初の音節にアクセントをおき、ミルトンは不統一、ドライデンは最後に、ロスコモンは最初においている」と注記している。

ジョンソン辞書の特徴の一部をごくかいつまんで列記したが、彼が英語辞典の編集という大事業に着手したのは、英語の純化・意味の確立を目指したもので、いってみれば文学者、詩人としての欲求からであって、その考えを实にみごとに具体化した。そして同時に、語学辞書という点から見ても、伝統から離脱し新しい時代を創り上げたものであった。この辞書によってジョンソンが確定した英語、また彼が基礎づけた辞書編纂の思想は将来OEDに継承されていくことになる。

〔参考文献：永島大典『ジョンソンの「英語辞典」その歴史的意義』／永島大典『英米の辞書—歴史と現状』／小島義郎『英語辞書物語』(上)〕

全米33の工科系大学が制作
航空・宇宙工学、情報・通信、経営工学からバイオテクノロジーまで
工学分野で世界最大規模のビデオライブラリー

AMCEE Videotape Courses

for engineers, scientists and technical managers

AMCEE (Association for Media-based Continuing Education for Engineers, Inc.)
米国の33の工科系大学をメンバーとする非営利団体。1976年設立。世界中の専門家
育成のニーズに応える膨大なビデオコースを世界配給。

■最新の研究成果と多種多様な学問領域をカバー

96年の最新刊を多数含め16分野1,400タイトル。新しさと幅広さが魅力です。

■第一線の研究者による体系的ビデオ講義

大学レベル以上の質を備えた講義内容。
各大学を代表する著名講師陣が魅力です。

■授業利用の他、個人・ グループ学習にも好適

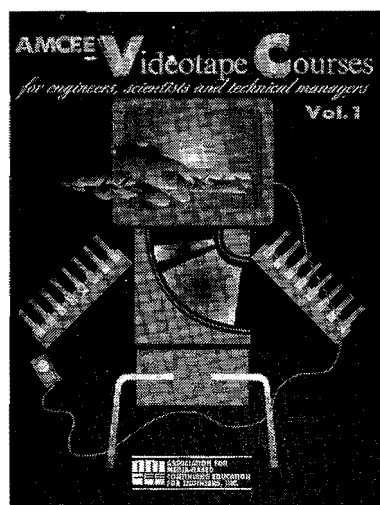
何時でも、何処でも、そして、何度でも……。
ビデオの簡便性が魅力です。

16分野1,400タイトル総額13億円を網羅。

AMCEE (略称アムシー)

総合カタログ

好評配布中



ご注文は全国の有名書店支店・営業所、工学系専門書店、大学生協で承ります。

●お問い合わせは下記へ

GMS

AN AUTHORIZED DISTRIBUTOR FOR AMCEE IN JAPAN

株式会社 **グローバルメディア・システムズ**

〒105 東京都港区浜松町2丁目5番5号 松井ビル

(営業本部) TEL. 03-3433-4375
FAX. 03-3437-1778

1997年2月 通巻第357号 洋書輸入協会
〒103 東京都中央区日本橋一丁目21番4号 千代田会館5階20号室

編集者 神田 俊二

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社